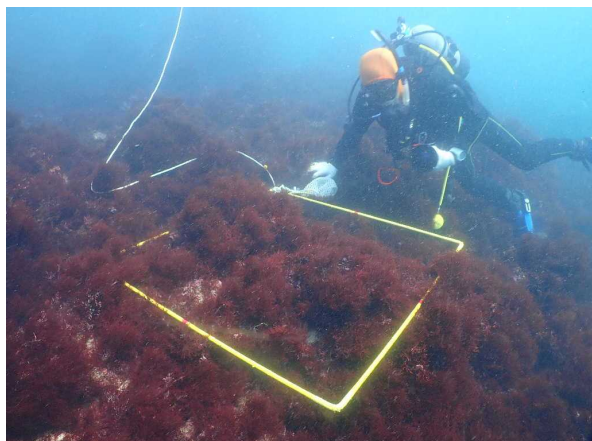




平成31年4月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

テングサ作柄調査実施中



↑ 枠取りによるテングサ調査の様子

解説：テングサの利用：寒天やところてんの原料になる。テングサから煮出した液を固めたものがところてん、ところてんを脱水し、乾燥させたものが寒天。

今年度のテングサ作柄調査は3月6日の白浜地区から始まりました。調査は現在も実施中で、伊豆地域の13地区で合計31カ所を潜水による1㎡の枠取りと目視観察でテングサの着生状況を調査していきます。

白浜地区の調査1カ所目ではテングサ着生量の大きな減少が見られたため、下田周辺の他の地点の様子が心配されましたが、他の地点では大きな減少は確認されませんでした。一方で、西伊豆では黒潮大蛇行の影響で例年よりも水温が高めに推移しており、漁業者からは海藻が少ないとの話が多く出ています。今後、西伊豆方面を調査しますが、テングサの状況が心配されます。

今年度の作柄予察は全ての地区の調査が終了した後、5月中旬ころまでにお知らせする予定です。

サメ、バラムツ等の食害対策

伊豆分場では、キンメダイ漁でのサメ・バラムツ・イルカの食害対策を進めています。これまでに当業船は半分以上の出漁日で食害種に遭遇していることが分かりました。漁獲量が低迷している中での食害被害は、漁業経営や資源管理にも大きな影響を与えます。今後も実態把握や対策について研究を進めていきます。



↑ 試験採捕した29kgのバラムツ

解説：バラムツは熱帯・温帯域に広く生息する大型魚。オイルフィッシュとも呼ばれ、筋肉にワックスが多いため、食品としての流通が禁止されている。

4月の予定 ●熱海地区でヒラメの中間育成が始まります。 ●今年のアワビ放流が順次行われます。 ●今年为天草作柄を予測するため、潜水調査を引き続き行います。 ●4月13日伊東市場にて『いとう漁協水産祭』が開催されます。

下田市水産・海洋学講座で講演

3月8日、下田市民文化会館で下田市教育委員会が主催する水産・海洋学講座が開催され、会場より「伊豆地域の定置漁業」という題目で講演を行いました。定置漁業の概要、伊豆地域の定置漁業の紹介、漁獲魚種の動向、販路開拓や先進技術導入等の各漁場の取組みについて説明を行いました。参加者の方々には伊豆地域の基幹漁業である定置漁業について理解を深めていただけたことと思います。



解説：水産・海洋学講座：下田市にある大学、海上保安部、県水産技術研究所の専門家が中学生以上を対象に、海や水産業に関する講演を行う。

稲取漁港直売所「こらっしゅ」 4月19日(金)10時からグランドオープン。通常営業は8時30分～15時。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu